
維持透析患者における肺の転移性石灰化 (metastatic pulmonary calcification; MPC) の解析

医療法人衆和会 長崎腎病院

○射場浩史 佐藤修一 小嶋幸徳 船越 哲

【背景】

MPC は無症候性に進行し、原因の多くは慢性腎不全における二次性副甲状腺機能亢進症に起因するとされ、従来の報告では血清 Ca・リン値、PTH レベルとの関連が指摘されているが、長期の透析歴と発症についての既存の研究は少ない。

【目的】

当院の透析患者 372 人について、MPC の発症に与える因子を解析した。

【対象と方法】

対象者は当院で過去 9 年間のうちに胸部 CT 画像を撮影した維持透析患者 372 名。MPC が疑われた 26 症例 (MPC 群: 平均年齢 71.1 歳、平均透析歴 15.0±11.3 年) と疑われなかった 346 症例 (非 MPC 群: 平均年齢 70.9 歳、平均透析歴 9.3±8.5 年) において、血液学的データや患者背景について比較検討し、MPC との関連を検討した。

【結果】

透析歴を共変量とした共分散分析を行ったところ、Ca, IP, iPTH などにも有意差は見られなかったが、MPC 群で CRP 値が高く ($p=0.0102$)、Alb 値が低値となり、血中 IP 濃度や石灰化スコアとの相関が見られた。また、治療薬に関しては、MPC 群でワーファリン服用率が高く、オッズ比は 13.2 であり、石灰化が多い症例ほど PT-INR 値は低値であった。

【考察】

MPC 群と非 MPC 群で性別や年齢はほぼ等しく、長期の透析歴が MPC 発症に関与した可能性が高い。また、ワーファリン使用による長期的なビタミン K 抑制は、動脈のみならず MPC などの異所性石灰化を促進的に作用する可能性が示唆された。